日本山岳会

都県境の90キロ 3年間で踏破

多摩支部発足し企画

社団法人日本山岳会（JAC）の東京多摩支部が発足することになり、設立総会が20日に立川市で開かれる。全国で29番目の支部となり、若者への登山普及などきめ細かな活動を進める。設立記念事業として、首都圏の山歩きファンに人気の都県境の山々を3年がかりで踏破する登山を企画し、一般の参加者も募集する予定だ。

多摩地区にはフランス・ミシュランの観光ガイドで三つ星を獲得した高尾山（599㍍）をはじめ、都内最高峰の雲取山（2017㍍）など、人気の山が多い。

日本山岳会東京多摩支部が計画している東京都分境縁踏査

一方、多摩地区には約420人の山岳会員がいるが、高齢化が進み、平均年齢は60歳を超す。これまでは主にJAC本部（千代田区）の活動に参加していたが、「独自のきめ細かい活動で活性化しよう」と昨年夏から支部設立の準備を進めてきた。

会員による登山、ハイキングや海外遠征のほか、一般市民を対象とした登山講座も開く。

「最大の課題は若者の『山離れ』。山の魅力を味わってもらうことが大切」と東京多摩支部設立準備委員会事務局長の三渡忠臣さん(70)は話す。

目玉企画の「東京都分境縁踏査」は、神奈川県に接する町田市の草戸山（364㍍）を起点に、絶景で名高い山梨県境の三頭山（1531㍍）、雲取山、埼玉県境の棒ノ折山（969㍍）などをたどる全長約90キロのコース。

参加者を公募し、5月ごろから年数回の山行を予定している。高低差と移動距離をポイントに換算して毎回加算し、参加者の励みにしてもらう。

問い合わせは三渡さん（042・625・0551）へ。

（米沢信義）

委託の85%「随契」

都公園協会 昨年度 外部監査で指摘

都立公園などの指定管理者になっている都の監理団体「都公園協会」（新宿区）が昨年度、下請け業者に委託した業務の約85%が入札を行わない随意契約だったことが、今年度の都の包括外部監査（監査人・鈴木啓之公認会計士）でわかった。監査報告書は「競争入札回避というべき随意契約が見受けられる」と指摘している。

報告書によると、協会が下請けと結んだ契約857件のうち、随意契約は728件（84・9%）。協会は内規で予定価格250万円以上の契約は競争入札にすると定めて